

大混戦

誰のための 何のための

少人数指導加配?



学校現場に怒り渦巻く!

学校五日制は、労働時間の短縮という国際公約でスタートしました。土曜日を他の平日の労働時間に加えることではありません。一方、「学校教育にはゆとりを」と文科省は言います。ところが「ゆとり」などどこを見ても生まれそうにありません。これでいい教育ができるわけがありません。

四月は新しいクラス、新しい子どもたちと新鮮な気持ちで出会い、じっくりと子どもたちと向き合い、一年間の学級づくりについて考えたい季節です。ところが今年、複雑な時間割作りで例年以上に多忙な上に、「少人数指導の時間教一問題で学校は大混乱しています。」

◆「一・二年生を大急ぎで帰して他学年の授業に!」

◆「空き時間が週〇・五時間しかない先生も!」

市教委は三月二〇日付で少人数指導加配の該当校は、「週あたり小学校二三時間・中学校一八時間十学級教二時間の少人数指導(TT)」を計画するようという文書を出しました。たとえば、一四学級の小学校の場合、五十一時間のTTの授業を組むことになります。教職員

さいたま市教組情宣

さいたま市
教職員組合
(埼教組)

TEL 641-6763
FAX 648-3567
e-mail
saisikyouso@mx2.
et.tiki.ne.jp

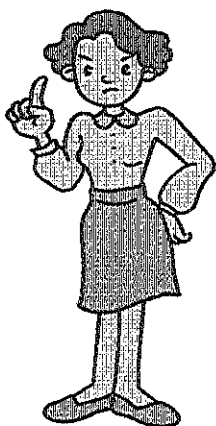
2002.4.24(水)
No. 3

◆「病休が増える!」

また、「六時間が増えた上に、空き時間がないのでは教材研究する時間は全くない。」「家に帰ると疲れ果てて寝るだけ。」「病休が増えるのでは。」「という深刻な声もあがっています。」

◆「教材研究する時間は全くない!」

の数を増やさずにこれを行うため、一・二年の担任が自分のクラスの子どもを大急ぎで帰して他の学年の授業に出なければならぬ、六年の担任の空き時間が〇・五時間(二週間に一時間)しかない、全員の持ち時間が去年より一時間以上増える・・・などなど多くの問題が起こっています。



◆「教職員の多忙すぎる現状が分かっているのですか!」

教師にこれほど負担を強いることを、ほとんど説明もなくたった一枚の文書で押しつけようとする市教委と、教職員の多忙すぎる現状を見ようとしなくてただひたすら時間教合わせしようとする管理職の姿勢が、学校を混乱させています。いったい誰のための、何のための「少人数指導」なのでしょう。

◆「土曜日が休みになった分、働け!」ということですか?

「子どもたちへのきめ細かな指導」と言いながら、実は「土曜日が休みになった分、働け」という思惑が見え隠れします。私たちは自分だけ楽しようと思つて、「空き時間を増やして」と言っているわけではありません。心も体も健康で、しつかり教材研究もして、笑顔で子どもたちの前に立ちたいと思うからこそ、少しでもゆとりがほしいのです。ひとりひとりの子どもの気持ちを大切にしたい、きめ細かな指導は、一週間ほとんど全部が授業というような忙しさの中からは決して生まれません。」

◆「全教と文科省の文書では...」

文科省も、「この問題に対して、全教(全日本教職員組合)との交渉で「今まで以上に授業時数を増やせ、労働時間を増やせ」ということは全く考えていない。今まで以上の労働強

■晋輔先生のひく5実践講座②■

ある制限を加える。例えば人数や男女混合など。そして、そうじ当番や給食当番などの当番活動に当たらせたりしている。教育的には「男女の性差を意識的に持ち込み、仕事を通して交流を図る」ことをねらいとしている。

ねらいとしているということは、別のねらいで実践してもいいと言うことになる。わざと男女別に編成し、その意味を問う実践も十分価値があるという訳なんです。こうした実践上の自由さは担任にとってかけがえのない武器なのです。学年や学校で「みんなでこうしよう」といって、自由な発想をさせなくてはなりません。あなたの学校はどうですか。実践上の自由。発想の自由。今年はず、そうした自由さで学年・クラスを見ようではありませんか。

つづく (中川晋輔 大久保中学校教諭)



組合では、四月十二日に、埼教組が県教委に要求書を提出し、今月末にも交渉が持たれます。市教組も四月十八日付けで市教委に要求書を提出し、早急な交渉を求めています。

- 加配校での「2X学級数」分の指導については、性急な実施を求めず、教職員が理解納得してとりくめるよう、職員会議での話し合いを尊重すること。
- 「2X学級数」分の指導を実施した場合でも、一定の期間を経た上で児童生徒の状況や教職員の仕事のすすめ方の実態に沿って検討をすすめる、見直しを図ること。

皆さんの生の声と怒りを組合に結集して、働きやすい職場をつくらせていきましょう。怒りの声を、メール等で送って下さい。